

重点項目

1 . 里山の保全

富岡市環境基本計画ワークショップのなかで活動を開始したクワガタの森づくり活動は、里山を荒廃させる大きな原因である竹や篠等の伐採や、子どもたちを対象とした自然観察会などを実施し、市民による自主的な **里山保全活動**へと発展しています。また、ドングリの収集や苗の育成など、広葉樹の植林を行う試みも実践されています。このような市民参加による里山保全活動は、本市が内外に誇る貴重な里山の保全という目的のみならず、市民自らが自然に親しみ、自然の大切さを学ぶ良い機会ともなるものです。

一方、里山を所有する農家においては、後継者不足や農業従事者の高齢化などにより里山の手入れが困難な状況にあります。

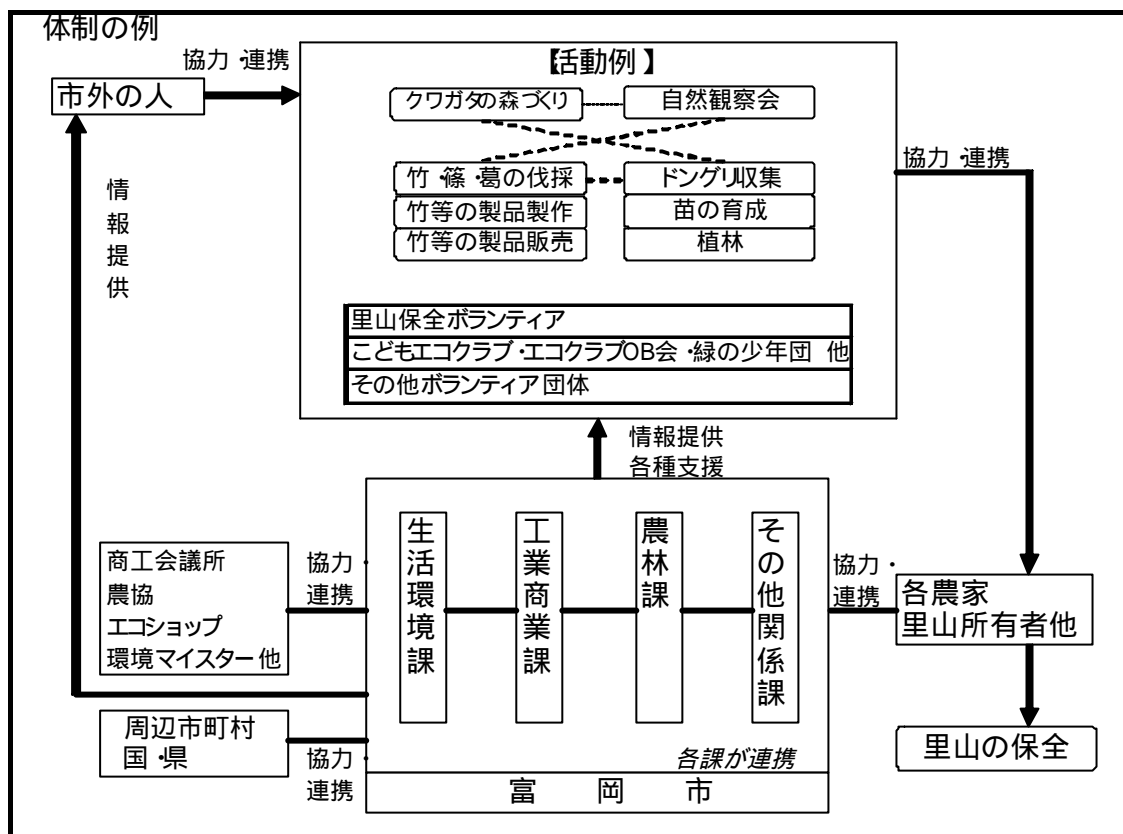
このため、市民が自然とふれあう機会を提供するとともに、里山の自然環境を保全する活動の支援を図ります。また、より多くの人に里山の素晴らしさを知ってもらうため、市内はもとより市外からも参加者を募り、市内外の人材による里山保全ボランティアの結成促進・育成に努めるほか、竹・篠など里山からの副産物を利用した製品の製造・流通に環境マイスターや商工会議所、農協、エコショップ等の協力を求めるといった **里山保全活動の支援体制づくり**に努めます。

さらに、里山保全を制度的に支えるため、**里山保全条例の制定**について調査・研究します。

里山保全活動の推進

里山保全活動の支援体制づくり

里山保全条例の制定



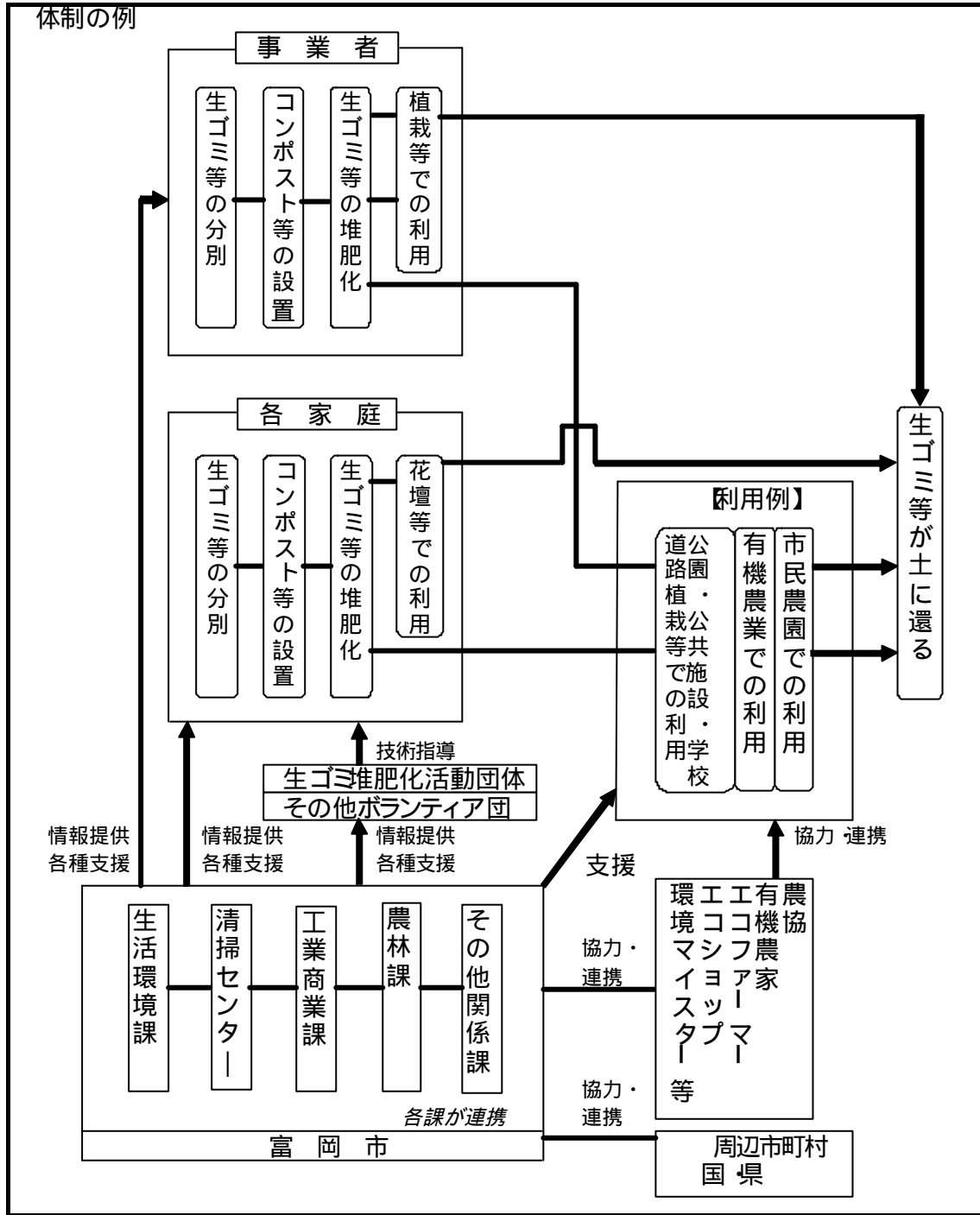
2 . 生ゴミ等の堆肥化

生ゴミや庭木の^{せんてい}剪定による枝葉や草花等は、通常、燃えるゴミとして焼却処理されていますが、水分を含むことから焼却には水分を蒸発させるための余分な燃料を大量に必要とします。しかし、生ゴミ等には栄養分が残されていることから、堆肥化することによって有効利用することができるほか、土に還すことによって土壌循環に役立たせることができます。

このため、**家庭などにおける生ゴミ等の堆肥化を促進し**、庭・ベランダなどの緑化に利用するとともに、公共施設での優先的な使用や農家等の協力といった、**生ゴミ等から作られた堆肥の利用体制の構築に努めます**。

家庭などにおける生ゴミ等の堆肥化の促進 生ゴミ等からつくられた堆肥の利用促進

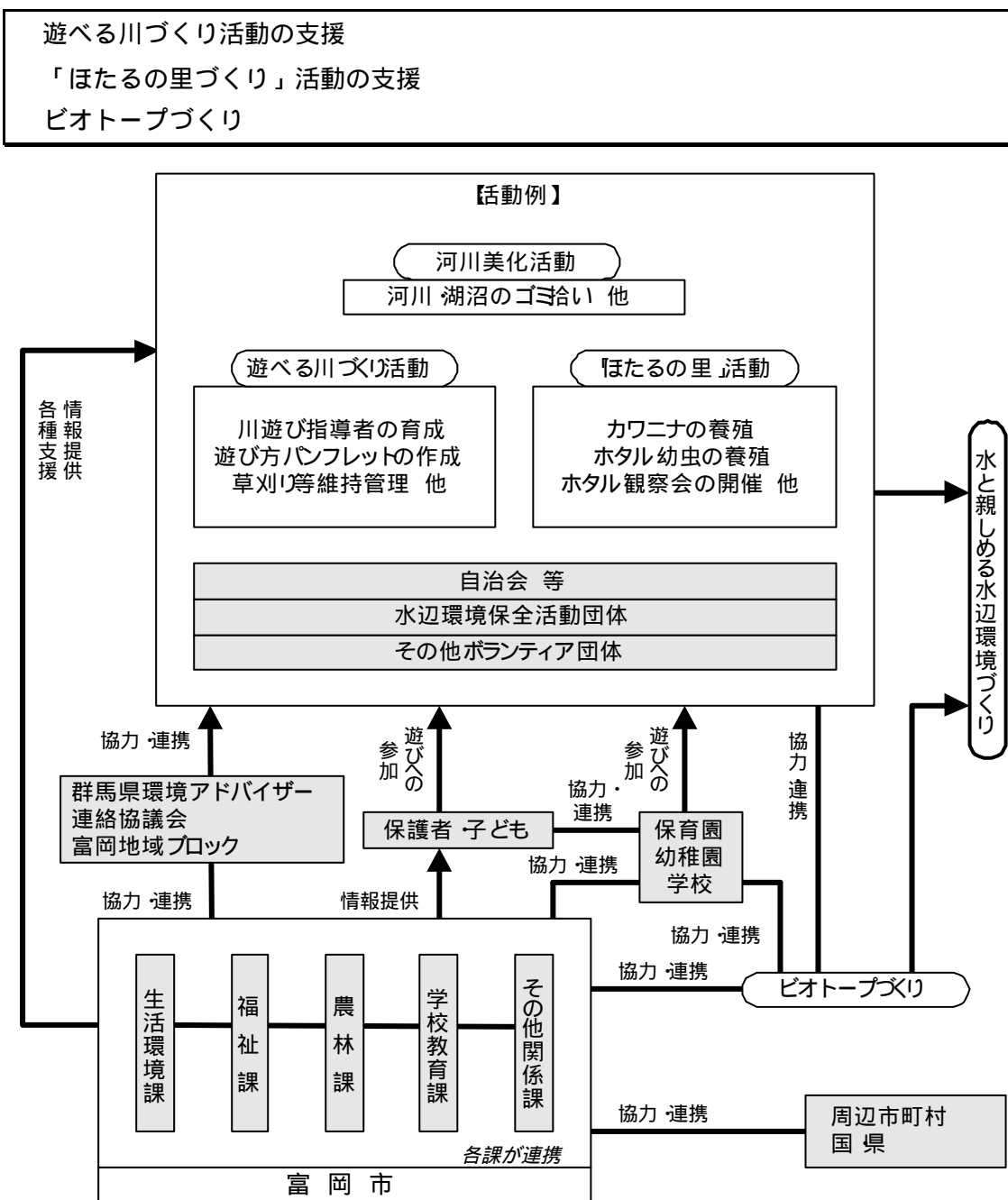
体制の例



3. 水と親しめる水辺環境づくり

水辺は、多様な生き物の生息場所であるとともに、市民が水と親しむことができる憩いの場や環境教育・環境学習の場としても大切です。また、市民が自ら望ましい水辺環境について考え、市民が求める水辺の整備を実現するためには、市民の主体的な参加による水辺環境の創造活動が必要です。

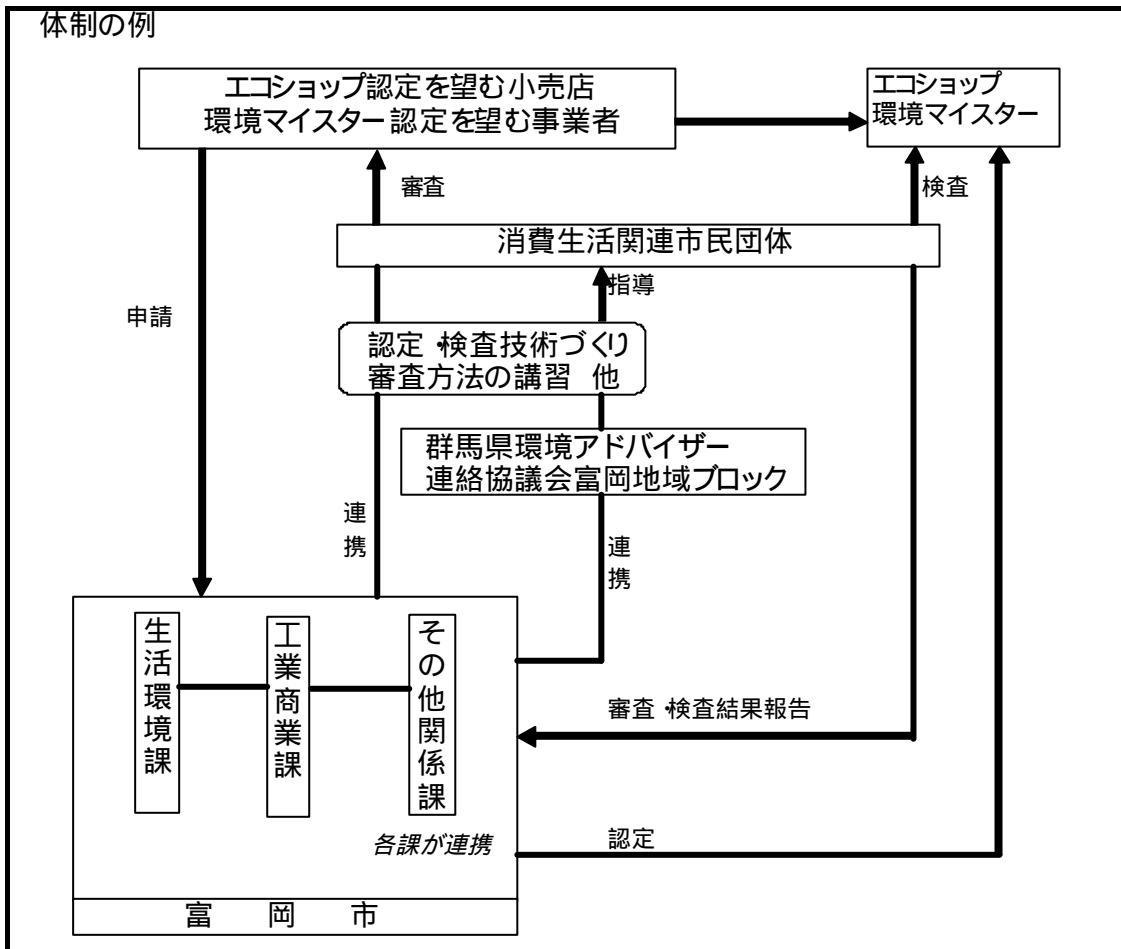
このため、現在行われている **遊べる川づくり活動** や **「ほたるの里づくり」活動** 等を支援し、市民自らの手による水辺環境づくりを促進するとともに、環境教育・環境学習の一環として、誰もが水辺に親しめるような **ビオトープづくり** に努めます。



4 . 循環型の社会経済システム確立

循環型社会の確立のためには、製造・販売・購入などの社会経済システムに環境への配慮を織り込んでいく必要があります。このため、**エコショップ制度**、**環境マイスター制度**の創設・普及に努めます。また、**リサイクル推進条例等の制定**について調査・研究するなど、循環型の社会経済システム確立に向けた制度面の整備に努めます。

エコショップ制度の創設・普及
 環境マイスター制度の創設・普及
 リサイクル推進条例の制定



5 . 地域エネルギー開発

現在の電力供給は、大部分を火力発電や原子力発電に頼っています。しかし、化石燃料の使用による二酸化炭素の放出が地球温暖化の原因とされることなどから、太陽、水、風などの自然エネルギーを活用することが求められています。また、発電所から電気を使用する場所までの送電ロスを考慮し、できる限り電気の需要場所に近いところで発電する、いわゆる分散電源の考え方も重要視されるようになってきました。

本市においても、地域の自然条件を考慮し、あらゆる自然エネルギーの有効利用を検討することが必要です。このため、**太陽光発電の検討**や **鳴沢の水力発電の検討**、**風力発電の検討**、**バイオマス利用の検討**などについて積極的に調査・研究します。

太陽光発電の検討

鳴沢の水力発電の検討

風力発電の検討

バイオマス利用の検討（特に、森林資源の活用による）

地域エネルギーの例～富岡市にあった水力発電

大正8年から昭和2年頃まで、富岡市の鳴沢には水力発電所がありました。

この発電所では、約55mの水の落差を利用して発電を行いました。また、水の取入口から水槽・貯水池、発電所に至る水路を全て木製とした珍しい発電所であったとされています。

今では、数mという僅かな水の落差を利用して発電することができますので、他の自然エネルギーともあわせて活用していくことが大切です。

鳴沢にあった発電所の位置



建設当時の水源池の様子



風力発電機の例

年間平均風速が6 m/sで発電が可能ですので、富岡での可能性について検討することが重要です。